

伊沢エイに関する研究(I)

山 田 敦 子
田 川 典 子

はじめに

伊沢エイは、明治末期から50余年に亘り、日本の女子体育に専心し、なかでもダンス分野での業線が顕著であったとされている。このことは、260有余のダンス作品が創られ今猶傳承されていることから、伺い知ることができよう。

この先達の足跡を前に、この道を歩むものとして伊沢エイのダンス観に触れたいとする欲求は押さえきれないものがある。

そこで本稿は、これに先だち、エイ^(註1)の女子体育に対する意向を、姉藤村トヨとの関わり・当時の活動・社会的動向の観点から分析することで明らかにし、「伊沢エイのダンス」の背景を探るものである。

1. 教育者の歩みへ

明治34年11月、教育者としての第一歩を小学校準免許状の検定試験合格によって踏み出す。

少女期には、小説家を夢みていたエイである。この夢が、次第に体育者を志すに至る過程の中で、姉藤村トヨの影響が非常に強かったのである。このことは、エイ自身が「私の歩んできた道(一)」^(註2)の中で、

「人生は何かの契機で思わぬ方向へ引かれていくものである。」

と述べている。

また、

「私達が帰ったのも気付かず姉^(註3)は端座して勉強している。何ともいえない気持ちであった。」^(註4)

「私の10才位の事である。……中略……日本外史、十八史略と進んでゆくにつれて私も姉にならって激しい向学心が湧いて来た。」^(註5)

註1 以下エイと略する。

註2 学校体育 8巻4号 昭和30年4月

註3 藤村トヨ

註4・5 学校体育 8巻4号 昭和30年4月

と、姉トヨのことを述べていることからよくうかがえる。

小学校に勤務していたエイは、まず活動的でない女子教員の服装に目をむけ、その改善を考えた。姉トヨに相談、その結果トヨから袴が送られている。しかし、当時の運動着改善については、姉トヨの研究功績が大きく評価されているが、この研究に着手したのが明治41年頃であることを考えると、エイの一言が、発想になったのではないかと思われる。

服装が軽快になったエイは、男子教員に代わって体操を教え始める。
(当時の体操は、「矯正術」と号令がかかると、両手を前にあげて軽く拳を握り、手首をグルグル廻す等の各部の運動から始められ、姿勢矯正を主眼として全身運動で連続的に続けられるものであった。)^(註1)

これと前後してトヨは、東京女子高等師範学校理科3年の終りに、半年も生きられないと診断され、郷里に帰された。静養中明治34年11月から、国分高等学校で代任訓導をした際、35年2月から5月、高松市で開かれた第8回関西府懸連合共進会の関西教育者大会で、東京で学んだ新しい体操やダンスを教えてくれと頼まれ、死ぬなら良い事をして死にたいと、毎日小学校に体操を教えに行き、3ヶ月後には、健康になったことから『体操専門家』と評された。これが動機となり、捨て難い理科を捨て体育に身を投じたのである。

翌36年、文部省の体操科教員検定試験の学科には及第したが、実技で失格し、37年、実技だけを受け直して合格した。^(註2) 35年10月より、奉職していた私立丸亀女学校を37年4月に退き、東京女子体操音楽学校に奉職した。^(註3) 更に、明治41年には高橋忠次郎の後をうけて、校長に就任している。体育に関わりをもったのは、エイが明治34年、トヨは35年からと、ほぼ同時期であるが、姉妹それぞれに期するものがあつたようである。

2. ダンス理念の確立へ

この姉妹の主張の中に、『自然運動』がある。姉トヨの『自然運動』は、生理学的合理論^(註4)にその始まりをもつ。すなわち「各々の環境条件に、いかに人体を照応するか、つまり自然の姿は均斉と健康を満足させるものである。」とする考えを基盤に、『自然運動』を「リズムによる連続体操を主とし、緊張と弛緩の協和によって呼吸と血液の循環を活発にし、健康と体質の向上にとって最適のもの」として提唱している。また、この生理学的見地からの理論に至る下地には、「過度の勉強から身体をこわし、その弊害を痛感していた」^(註5)という自身の体験に基づく祈りが込められていたと思われる。

一方、エイは教員としてはじめて奉職した当時から、全盛であつた体操<矯正術>の画一的で単純な部分の運動に、疑問を禁じ得ず(「生活力の旺盛な子供達に、こんなことでよいものか、もっと深いものがあるに違いない……」^(註6))、ここに端を発して「子供の自然で柔軟な

註1 学校体育5巻9号、昭和27年9月

註2 上沼八郎「近代日本女子体育史序説」不昧堂書店 昭和43年3月1日

註3 掛水通子「高橋忠次郎に関する歴史的研究(1)」藤村学園東京女子体育大学紀要第14号 1979年3月

註4.5 上沼八郎「近代日本女子体育史序説」不昧堂 昭和43年3月1日

註6 伊沢エイ「私の歩んだ道(一)」学校体育8巻4号 昭和30年4月

動きを如何に利用するか、固くなりつつある生徒に対する動きの矯正を如何にするか」^(註1)という自然な子供の「動き」、すなわち運動に着眼している。

発想の根底は、異なるものの、各々の体験から〈からだ〉と〈動き〉に着目した二人は、互いにその意向に共鳴しあうもの大であったと思われる。この結果、エイはトヨの要請もあって東京女子体操音楽学校に学修の場を見出し、以来二人の『自然運動』の実践的研究がはじめられることとなる。

*

『自然運動』は、二人のドイツ遊学を契機として確信されていった。

明治43年に卒業したエイは、姉を助け、当時ダンス教員として体操音楽学校に迎えた坪井玄道の助手を務めるようになった。

坪井玄道は、明治33年～35年の英独仏の留学でドイツ体操の変貌を目撃し帰国している。その指導は、玄道訳の行進運動法書（当時唯一のダンス指導書であった。）

その内容は、

- | | | | |
|-----------|----------|-----------|----------|
| 一、唱歌列舞 | 一、歩法演習 | 一、ライゲンタンツ | 一、対唱操球列舞 |
| 一、タンツライゲン | 一、列舞適用行進 | 一、メヌエット | 一、行進列舞 |
| 一、操球唱歌列舞 | 一、マズルカ | | |

等であり、特に唱歌列舞に対しては「簡単な行進運動の外は、唱歌しつつ運動せしむるは生理上不適当なりとす。」と注意を促している。

エイは坪井玄道を師として敬愛し、その円満な人格と愛情ある指導、そしてその妙味ある動きに心酔していた。しかし、その概要は「現在のダンスの如く表現せるものでなくステップを主として列の編形を主としたものであった。」^(註2)と後にエイが、述懐しているように、少しの四肢運動とステップの編形で構成されたものであった。部分的で画一的な運動に疑問を抱き上京したエイであったので、このことにもあきたらず、「身体を体操的に動かせる全身的な運動の含まれているダンス」をと、玄道に相談、その許しを得て、表現的な『麗しき山を』という処女作を発表した。これが、玄道の賞賛を得、激励をうけることになり、自身の信念に意を強くすることとなった。^(註3)

坪井玄道の助手として、その動きの柔らかさ、自然さに触れ、玄道逝去の後は一人体操音楽学校でダンス指導にあたることになったエイは、その重責を痛感し、学校ダンスの在り方、理想とする方向を模索し、苦慮する日々を送った。この悩みは、文部省から教授要目が発表されても解決されず、以来研鑽しながらも苦悩の大正期を終えることになる。

大正2年に、文部省から教授要目が発表されたが、その内容は体操がスウェーデン式一色、ダンスはフェュスト・ポルカセリーズ等の発表的遊戯や行進遊戯である。更に改訂要目によって遊戯及競技は、三種類に分類された。競争遊戯、行進遊戯、動作遊戯の三つで、ダンスについては、行進遊戯と動作遊戯の二つに大別された。行進遊戯（行進を主とするもの）については、十字行進、踵趾行進、方舞の教材例をあげ、動作遊戯（発表的動作を主とするもの）については「渦巻」「池の鯉」「木の葉」「大和男子」等の教材をあげている。^(註4)

註1 伊沢エイ「私の歩んできた道(二)」 学校体育8巻5号 昭和30年5月

註2 伊沢エイ「私の歩んできた道(二)」 学校体育8巻5号 昭和30年5月

註3 伊沢エイ「私の歩んできた道(二)」 学校体育8巻5号 昭和30年5月

註4 全日本児童舞踊家連盟編「児童舞踊50年史」 全音楽出版社 昭和33年5月20日

この結果、エイは「日本に於いての研究だけでは満足出来ない。強力な国民体育と取り組んでいる独逸の体育、並びに欧州の現状を観ることが大切である」との結論を得たのである。

*

昭和3年、藤村トヨが高橋忠次郎と欧州遊学へ旅立ったすぐ後を追うように、昭和4年伊沢エイは汽車でベルリンへ向かった。(この時は、文部省・東京都体操協会より欧州視察の辞令があり、はじめて外遊、一人旅ということで野口源三郎からキャッシュ・チェンジの方法、税関の予備知識、食堂の注意等の指導、激励を受けて出発している。)

ドイツで、姉トヨの出迎えを受けたエイは勉学心を押しきれず、長旅の疲れを癒すことなく、翌日から精力的に奔走している。

香川で、教育者としての第一歩を若干17才で踏み出したときの決意を「私に開かれている道を誰にも負けないように勉強して、前進し、自身がもてるように努力するだけだ。」^(註1)と述べていたが、この向学心に燃え、努力を惜しまない前向きな姿勢がベルリンでの様子からもうかがえる。

「食後打ち揃うて博物館の見学である。旅の疲れはあったが明日からの勉強の事を考えると一刻も大切だと元気を出して同行した。(中略)ベルリンの一夜は明けて、早速プランを立てた。一時も有効に時間を使って、少しでも多く吸収しなければならない。当時のドイツには、有名な体育の学校が沢山ある。どの学校の授業も学び度いと考えた結果、先ず自然体操とダンス、それから各学校の体育設備と実際の視察等を考えると、1ヶ年の日程では過重である。(後略)」^(註2)

ドイツ人の親切に感謝しつつエイの立てた滞在プランは次のものであった。

1. ウィグマンの夜学でダンスを学ぶ。
2. ウィグマンから土曜日と日曜日に講師を派遣して貰って自宅特別指導を受ける。これは貧乏の私では出来ないことだが、姉が主体で私は聴講生である。
3. ドロテヤシュミットのタンツ部に席を置く。
4. ボーデの体操実施コースに入る。
5. ボーデの書物の解説特別指導を受ける。」
6. ドロテヤシュミット体操部に入り、普通体操教員部、社会人部に入って実地指導を受ける。
7. テスマン式体操講習を受ける。
8. カルマイヤで裸体体操の指導を受ける。」^(註3)

これらの研修の中からエイが学んだものは、「システムに於て、各々特徴を持っていたとしても、私の感じ取ったものは、ボーデの自然体操が全部根本になっている事」^(註4)であった。悔恨を込めて「私共の若い時の体操は、動きの科学的理解もせず、只一つの形式によって手を振り、足を動かしていた。この趣味のない体操を思いおこした時、今更の感に打たれた」^(註5)とも反省している。

特に、「ウィグマンのダンスの基本では、足の使い方、腕の動き、殊に体の操作等、自然運

註1 伊沢エイ「私の歩んできた道(一)」 学校体育8巻4号 昭和30年4月

註2・3・4・5 伊沢エイ「私の歩んできた道(三)」 学校体育8巻6号 昭和30年6月

動の研究なしには、会得出来ないのではないかと思われる。」また、カルマイヤの指導では裸になることを拒否したが、「授業が始まると先生は、よく私の背後に立っておられた。私の背骨に手をかけて解緊を指導して下さったが、私の背は余程硬かったと見えて、熱心に教えてくれると、いよいよ運動着が邪魔になるので、先生は私の肩のホックをはずして、半裸にして背骨の湾曲について説明してくれる」、「ドロテヤのダンス指導で参考になったことは、生徒会員にタンバリンをもたせ、黒板に音符を書いてその通りにタンバリンを打たせる。其の打ち方を研究させ、次にリズム拍子の理解が出来た上で、その音楽をタンバリンを打ちながら身体で表現する。その方法が印象的であった。」^(註1)と述懐し、なかでもウィグマン・シューレにはエイの全力を傾注したようである。指導形態についても「ウィグマンの指導法は、全員を体操隊形に並べて運動させることは殆んどない。1人か2人の移動式の基本指導である。」「ダンスは各々個人的な動きに特徴をもつのが当然なので、この指導法でなければ各々の特技を上達させることはむずかしい。」^(註2)と感服したようである。

僅か、1年という限定の中を駆けぬけるように、しかし過重とも思えるプログラムを設定し、それこそ長年抱きつづけた疑問の空洞を一挙に埋めるべく充実した時間を送ったエイは、ボーデの自然体操理念をもとに、ダンスの基本的原理は、自然運動であることを理解した。そしてその実践は、「体操と取り扱いこそ異なっているが、『緊張、解緊、弾性、蛇動、振動、重心移動、跳法等』が主な練習であり、特に跳法も身体の柔軟性に深い関係があることを見逃がすことが出来ない。」^(註3)との結論を得たのである。このことは、ウィグマン・シューレにおけるダンス指導が、徹底的な基本練習であったことにも起因するものであったと思われる。

後に、エイ自身が回顧する中で、「私は、欧州に行けば良いダンス教材を多く修得することができつもりであったが、何れの学校でも全部が基本で、教材らしいものは一つもなく、最初は少し物足りなく考えたのであったが、其れは大きな間違いであったことが理解できた。若し30、50の教材を土産に持って帰ったとしても、其れは何年とは続かない。基礎指導を受けたればこそ、振付創作は無尽蔵である。」^(註4)と述べ、更に「体育は、ダンスに限らず根本を極める事が最も大切であることはいうまでもない。」^(註5)と結んでいることが興味深い。

おわりに

欧州からの帰国後、昭和6～39年までの33年間にエイのダンス作品は260余に数えられる。(表1参照)一人の人間に限られた生命の中で、残し得る作品の創造には、自ら限度がある。その困難さは、他の芸術分野からもうかがうこともできる。

エイがこれ程の作品を生み出し得たのも、当時であって、燃えるような向学心と、人並すぐれたバイタリティを持し、柔軟な思考力と吸収力、更に卓越した創造性と豊かな情緒の持主であったことの証左とみることができよう。

姉藤村トヨと共に、東京女子体操音楽学校での体育指導者養成の重責を果す一方、ダンスの基本的原理を明確なものとし、その指導方法を確立していったのである。

註1,2,3,4,5 伊沢エイ「私の歩んできた道(三)」 学校体育8巻6号 昭和30年6月

表1 伊沢エイの作品一覧

№	年月	作品名	№	年月	作品名
1	大正15年3月	胡蝶	39	昭和6年8月	アルプスの鐘
2	昭和2年2月	二羽の蝶	40	" " 11月	子供の踊り
3	" " 10月	遊びましょ	41	" " 7年1月	集い
4	" " 6年1月	モルゲンロート	42	" " 3月	路傍のばら
5	" "	フレンチ・マーチ	43	" " 4月	影絵
6	" "	蝶のたわむれ	44	" " 12月	晴れの競技
7	" "	私たち	45	" " 8年10月	舞踏の印象
8	" "	喜び	46	" " 12月	ガロップバーレスケ
9	" "	友千鳥	47	" " 9年1月	元来た方へ
10	" "	親鳥子鳥	48	" " 3月	廻れや廻れや
11	" "	ダンス・オブ・ピース	49	" " 4月	つばくらめ
12	" "	波上の月	50	" " 5月	庭の千草
13	" "	お月見	51	" " 6月	野辺の花
14	" "	ウルテルデンリンデ	52	" " 7月	漁船
15	" "	巴里人の生活	53	" " 8月	紅葉
16	" "	空行雁	54	" " 10月	青嵐
17	" "	蝶のゆくへ	55	" " "	雲の峰
18	" "	エリンネルング	56	" " 12月	ハンガリア舞曲
19	" "	花の精	57	" " 10年1月	マズルカ
20	" "	星形行進	58	" " 3月	だるまさん
21	" "	漣	59	" "	雨の止む時
22	" "	カントリーダンス	60	" "	騎兵
23	" "	紅ばら	61	" "	水車
24	" "	落花	62	" "	踊る小猫
25	" "	みどりの乙女	63	" "	人捕り遊び
26	" "	ワルツライゲン	64	" "	姉と弟
27	" "	ローズダンス	65	" "	夕風
28	" "	クローソータンツ	66	" "	喇叭手
29	" "	躍れ姉妹よ	67	" "	さあ、さあ、やろう
30	" "	ミニュエット	68	" "	春の華
31	" "	さつき	69	" "	あけぼの
32	" "	電車と汽車	70	" "	私のボール
33	" "	雉子がり	71	" "	雲雀は空に
34	" "	ギッチョンチョン	72	" "	国風マズルカ
35	" "	あした	73	" "	希望
36	" "	稲穂の雀	74	" "	愛らしきピエロ
37	" "	浜千鳥	75	" "	春の暁
38	" "	牧人の踊り	76	" "	人形の踊り

No.	年 月	作 品 名	No.	年 月	作 品 名
77	昭和10年3月	朝 の 海	117	昭和11年6月	シ ャ ボ ン 玉
78	" "	秋 の 訪 れ	118	" " 11月	ス コ ッ チ キ ャ ッ プ
79	" "	追 わ れ る 胡 蝶	119	" 12月	日 の 丸 の 旗
80	" "	朝 日 は の ぼ る	120	" "	鳩
81	" "	楽 し き 思 い 出	121	" "	兵 隊 さ ん
82	" "	風 花	122	" "	ヒ コ ウ キ
83	" "	董	123	" "	案 山 子
84	" "	水 藻 は ゆ ら ぐ	124	" "	蝶 々
85	" "	一 番 星 み つ け た	125	" "	雪
86	" "	菊 の 花	126	" "	春 が 来 た り
87	" "	兎	127	" "	ひ ば り
88	" "	ポ チ	128	" "	か ぞ へ 歌
89	" "	ア メ	129	" "	汽 車
90	" "	ホ タ ル	130	" "	春 の 小 川
91	" "	ユ キ ダ ル マ	131	" "	水 師 營 の 会 見
92	" "	ネ ズ ミ の モ チ ヒ キ	132	" "	お ぼ ろ 月 夜
93	" "	か け っ こ	133	" "	故 郷
94	" "	雪	134	" "	春 風
95	" "	サ ク ラ	135	" "	幼 き 頃 の 思 い 出
96	" "	山 の 上 か ら	136	" "	象
97	" "	虫 の こ え	137	" "	反 さ が し
98	" "	村 祭	138	" "	縫 う て ゆ く
99	" "	日 本 の 国	139	" "	か た つ む り
100	" "	白 帆	140	" "	私 の ま ね
101	" "	氷 す べ り	141	" "	シ ー ソ ー
102	" "	夏 の 月	142	" "	こ と ろ
103	" "	舟 の 旅	143	" "	ご 挨拶
104	" "	海	144	" "	ひ き く ら
105	" "	秋 の 山	145	" "	鬼 ご っ こ
106	" "	荒 城 の 月	146	" "	か げ ぼ う し
107	" 11年1月	飛 行 機	147	" "	ブ レ ッ キ ン グ
108	" "	ぴ ゃ ん ぴ ゃ ん こ 兎	148	" "	ぶ ら ん こ
109	" "	お う む の お 話	149	" "	仲 よ し
110	" "	猿 ケ 島	150	" "	マ ウ ン テ ン マ ー チ
111	" "	円 舞 か も め	151	" "	ス ケ ー テ ィ ン グ
112	" "	大 地 に 伸 び る	152	" "	ブ ラ ッ ク ナ ッ グ
113	" " 2月	雪 合 戦	153	" "	ク ラ ッ プ ダ ン ス
114	" " 3月	ヒ カ ウ キ	154	" "	リ チ カ
115	" " 4月	ス キ ー の 歌	155	" "	ヴァ ル ソ ヴ ァ イ エ ス
116	" " 6月	鳥 と 花	156	" "	アイ リ ッ シ ュ リ ル ト

№	年 月	作 品 名	№	年 月	作 品 名
157	昭和11年12月	ヴィンヤード	197	昭和25年11月	蝶を追うて
158	" "	ボルカセリーグ	198	" "	乙女の祈り
159	" "	ギャザーコーツ	199	" "	アルプスの夕映
160	" 12年6月	グリーンティング	200	" "	金波銀波
161	" " 9月	タンホイザー	201	" 27年9月	森の精
162	" " 12月	菊	202	" 29年3月	べこの子うしの子
163	" 22年11月	小 馬	203	" "	やくそくゆびきり
164	" "	風	204	" "	動物あそび
165	" "	港	205	" "	こいこいさざなみこい
166	" "	競 走	206	" "	森の小うさぎ
167	" "	よ ろ こ び	207	" "	チューリップマーチ
168	" "	野 ば ら	208	" "	花のワルツ
169	" "	三 つ の 蝶	209	" "	白 鳥
170	" "	ドナウの漣	210	" "	たのしい遠足
171	" "	麦 刈	211	" "	輪の流れ
172	" 24年5月	令嬢の乗馬	212	" "	タンホイザーマーチ
173	" 25年11月	雀の学校	213	" "	ラインの流れ
174	" "	夕やけこやけ	214	" "	小鳥と青空
175	" "	お馬のけいこ	215	" "	泉のほとり
176	" "	どんぐりコロコロ	216	" "	つりがね草
177	" "	ゴムマリポンポン	217	" "	美しき碧きドナウ
178	" "	おせんたく	218	" 8月	どんぐり小僧大行進
179	" "	ほたる来い	219	" 30年	ニコニコ体操
180	" "	春が来た	220	" "	三匹の子ぶた
181	" "	風 あ げ	221	" "	村のかじや
182	" "	太鼓のひびき	222	" "	虹のリボン
183	" "	ちんから峠	223	" "	平和の光
184	" "	見てござる	224	" "	カルメンシルバー
185	" "	青い眼の人形	225	" "	ワ ン ズ
186	" "	ボール遊び	226	" "	銀 波
187	" "	漁業の歌	227	" "	ポ ー ル
188	" "	まわるまわる	228	" "	棍 棒
189	" "	朝はどこから	229	" 31年8月	落花のリズム
190	" "	風はそよ風	230	" "	リズムにのせて
191	" "	美しき天然	231	" "	人形のマーチ
192	" "	アラベスク	232	" "	短杖リズム運動
193	" "	紡 ぎ 車	233	" "	棍 棒 体 操
194	" "	出 船 の 港	234	" 32年	サキソホンマーチ
195	" "	早 乙 女	235	" "	スポーツの鐘がなる
196	" "	し か ら れ て	236	" "	人形のマーチ(人形)

No.	年 月	作 品 名	No.	年 月	作 品 名
237	昭和32年	い ち ょう 円 舞 曲	252	昭和34年	ダ ニ ュ ー プ の 流 れ
238	" "	秋 を 踊 る	253	" "	金 と 銀
239	" "	金 の 輪 銀 の 輪	254	" "	祝 典 行 進 曲
240	" "	携 帯 器 具 リ ズ ム 運 動	255	" 35年	ア メ リ カ の 巡 邏 兵
241	" "	皿 鈴 体 操	256	" "	波 濤 を 越 え て
242	" 33年	兎 と 亀	257	" "	ハ イ テ ィ ー ン
243	" "	五 色 の マ ー チ	258	" 37年	東 京 オ リ ン ピ ッ ク の 歌
244	" "	聖 火 を か ざ し て	259	" "	オ リ ン ピ ッ ク 大 行 進 曲
245	" "	旅 愁 変 奏 曲	260	" "	ワ ル ツ に の せ て
246	" "	旅 を ゆ く	261	" 38年	東 京 オ リ ン ピ ッ ク の 歌
247	" "	手 具 リ ズ ム 運 動	262	" "	栄 冠
248	" "	ア ジ ア の 若 人	263	" "	く る み 割 人 形
249	" 34年	わ ら べ 歌	264	" 39年	希 望 (輪)
250	" "	お も ち ゃ の 兵 隊 さ ん			
251	" "	時 計 屋 の 店 先 で			

参 考 文 献

- 伊沢エイ 「体育ダンス」 昭和6年1月31日 目黒書店。
- 伊沢エイ 「体育ダンスと唱歌遊戯」 昭和10年3月10日 目黒書店。
- 伊沢エイ 「現代学校体育全集小学校篇小学校唱歌遊戯行進遊戯」 昭和11年12月12日 成美堂書店。
- 伊沢エイ 「学校ダンス」 昭和25年11月15日 金子書房。
- 伊沢エイ 「新学校ダンス」 昭和29年3月25日 金子書房。
- 伊沢エイ 「図説体育ダンス」 昭和39年5月30日 新思潮社。
- 伊沢エイ 「師範大学講座体育舞踊」 昭和11年1月 宮辺書店。
- 「学校指導要綱解説」 昭和22年11月10日 目黒書店。
- (健康の女性2巻3号) 大正15年3月。
- (健康の女性4巻2・8号) 昭和2年2・10月。
- (女性体育1巻1~4号) 昭和6年2~5月。
- (女性体育1巻6~10号) 昭和6年7~11月。
- (女性体育2巻1・3~4号) 昭和7年1・3~4月。
- (女性体育2巻12号) 昭和7年12月。
- (女性美5巻10・12号) 昭和8年10・12月。
- (女性美6巻1・3号) 昭和9年1・3月。
- (女性美6巻4~8号) 昭和9年4~8月。
- (女性美6巻10・12号) 昭和9年10・12月。

- (女性美 7 卷 1 号) 昭和10年1月。
- (女性美 8 卷 2~4・6号) 昭和11年 2~4・6月。
- (女子体育 9 卷 6~9・12号) 昭和12年 6~9・12月。
- (学校体育 2 卷 5 号) 昭和24年12月。
- (学校体育 3 卷 12号) 昭和25年 5月。
- (学校体育 5 卷 9 号) 昭和27年 9月。
- (学校体育 7 卷 8 号) 昭和29年 8月。
- (学校体育 8 卷 4・5・6・7・8・11号) 昭和30年 4~8・11月。
- 全日本児童舞踊家連盟編 「児童舞踊50年史」 全音楽譜出版社 昭和33年 5月20日。
- 上沼八郎 「近代日本女子体育史序説」 不昧堂 昭和43年 3月 1日。